

バイオテロ対策のための備蓄されている細胞培養痘そうワクチンの備蓄等、バイオテロ病原体への検査対応、
公衆衛生との関連のあり方に関する研究
分担報告書

分担研究課題名: バイオテロ検知のための疫学的アプローチ オリンピック・パラリンピック東京大会におけるバイオテロ探知に関する疑似症サーベイランスの評価

所 属 国立感染症研究所 感染症疫学センター
研究分担者 鈴木 基

研究要旨: オリンピック・パラリンピック東京大会(以下東京大会)の開催に伴い、様々な国からの訪日客が増加し、テロ行為を含め、国内に常在しない感染症が持ち込まれるおそれがあること、日本国内で流行している感染症が訪日客(選手も含む)に波及し、イベント開催中や帰国後に発症し、感染が拡大するおそれがあること等から、大会期間中に疑似症サーベイランスが強化された。米国疾病予防管理センターが提唱するサーベイランス評価の手法を参考に、定量的な手法と定性的な手法をあわせた方法で大会の前後と大会中の期間を対象に疑似症サーベイランスシステムの評価を行う。評価には Timeliness、Flexibility、Acceptability、Usefulness の 4 つの Attributes を使用する。対象期間中に 1 件の事例が報告された。尚、同期間に 3310 件のゼロ報告がなされた。今後大会期間中にサーベイランス関わった関係者への聞き取り調査と評価を進める。

研究協力者

福住宗久 国立感染症研究所 実地疫学研究センター、危機管理研究センター(併任)

小林祐介 同 感染症疫学センター、実地疫学研究センター(併任)

A. 研究目的

東京大会において疑似症サーベイランスでバイオテロが疑われる事例を含めた異常な感染症(疑い)事例が早期に探知され、適時に必要な検査と事例のリスク評価がなされかたかを評価し、今後日本で行われる国際的なマスコギャザリングにおけるバイオテロ早期探知のシステム構築に資する。

B. 研究方法

米国疾病予防管理センターが提唱するサーベイランス評価の手法を参考に、定量的な手法と定性的な手法をあわせた方法で疑似症サーベイランスシステムを評価する。

対象期間: 7月1日から9月19日

情報源: 疑似症サーベイランスデータ、疑似症サーベイランスに関連する資料、症例(事例)を報告した自治体、病院関係者からの聞き取った情報
評価には Timeliness、Flexibility、Acceptability、Usefulness の 4 つの Attributes を使用する。

【倫理面への配慮】

感染症法に基づく情報収集であり、倫理審査には該当しない

C. 研究結果

対象期間中に 1 件の事例が報告された。尚、同期間に 3310 件のゼロ報告がなされた。

D. 考察

大会期間中に 1 件の報告があった。今後大会期間中にサーベイランス関わった関係者への聞き取り調査と評価を進める。

E. 結論

大会期間中に 1 件の報告があった。今後大会期間中にサーベイランス関わった関係者への聞き取り調査と評価を進める。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし